

## 第5回 徳島市新ホール建設候補地検討会議 会議録 概要

日 時 平成29年5月17日(水) 午後6時30分～午後7時  
場 所 ホテル千秋閣 7階 鳳の間  
出席者 18名(委員7名、市長ほか)  
傍聴者 8名

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 意見書の提出について

(意見書を会長から市長へ提出)

#### 会長：

この委員会では、1,000席以上のホールが徳島市にないという状況のなかで、一刻も早くほしいという声を受けて、建設候補地の3カ所について検討した。検討する項目はたくさんあったが、3つの視点を挙げさせていただいた。

1つは市民の芸術文化の創造拠点、県都のホールとしてふさわしい規模を持つこと。これについては、有識者会議で提言されたように1,200席～1,800席という議論が出ているが、これと小ホール、さらに文化活動をする創造拠点を踏まえて造ってほしいということだ。

2点目はスケジュールだが、平成35年度に開館を目指してほしいということ。

3点目はコストについても妥当なものであり、財政負担が過度とならないものであること。この3点を重視して3カ所の選定を行った。

具体的にどういうことを検討したかということ、まず、芸術文化の創造拠点、県都のホールについては、大ホール、小ホール及び創造支援ゾーン、ここには活動室、スタジオ、リハーサル室、交流サロンが入る。意見書には明言していないが、新ホールはおよそ8,000㎡～10,000㎡くらいになるだろうと想定して検討した。

また、スケジュールについては、平成35年度に向かって遅れる要因がないかを考えた。

コストについては、延床面積約10,000㎡のホールならば大体これくらいで建設できるだろう金額を示していただいたが、それにプラスアルファでかかると思われるコストが正式には見積もりできていないが、どれくらい増加要因があるか、減額できないか等を検討した。技術的なことについては、検討する時間があまりない状況で判断している。この3つについては、皆さんと議論をさせていただいて、状況については共通の認識を持てたと思っている。

各候補地の検討結果について順番に説明する。

文化センター敷地については、元々施設があった場所で、駅からそれほど遠くない、歩いて行ける距離にあるが、残念ながら鉄道高架が終わっていないので、線路を越えるルートには階段等があってバリアフリーではない状況にあり、惜しいと思う。次に敷地については、現在のホール設計としては、横幅を広げてステージを広くとる傾向にあるため、その分の空間が厳しく奥行が取りにくい。ホワイエからステージ奥までの距離が足りないという指摘も受けた。スケジュールとコストについ

ては、スケジュールは、一番問題が少ないという判断になっている。ただし、敷地の条件がかなり厳しいので、すべての要素をこの敷地に入れようとする一部を地下化したり、高さを抑えるための工夫をしなければならないので、多少コスト高になるだろうと思われる。

次に旧動物園跡地については、中心市街地から少し外れたいわゆるエッジと言われる位置にあるため、中心市街地の活性化という意味では少し弱い感じがする。ただし、水辺を活用した文化ゾーンの形成を狙うのであればあり得るだろう。ただ、周りとの連携がかなり必要だろうと考えている。また、アクセスが駅から遠くなるので、中央公園を活かしたアクセスを考えてほしいという意見があった。

アクセスが弱いため、駐車場の要望が高くなる地域であり、スペースもあるので駐車場の整備が考えられるが、その場合に周囲の交通渋滞に与える影響はかなり問題がある。特に国道11号線の出口交差点については、私自身以前から検討していたこともあるが、今の信号処理では出ていくのに相当時間がかかる。周辺住民からのいろいろな苦情が生じる可能性がある土地なので、その検討が必要であると書いた。

スケジュールについては、現在更地なのですぐ建てられるように思われるかもしれないが、実は都市計画の用途地域の制限と都市計画公園の決定の2つを緩和あるいは除外しなければならない。そのためには、市民、特に周辺の市民の方の同意が欠かせないが、これがスムーズに取れるかどうかに関していくつか懸念がある。取れない場合、手続き自体が長期化することに委員は懸念を持っている。

最後に、今回はじめて候補地として出てきた徳島駅西側駐車場については、駅に隣接し、中心市街地の核となる要の場所であることで、市内だけでなく、県外、県全域からのアクセス性が高いため、催し物をする事で交流人口を増やすという意味での期待が大いにある。高速バスでやってきて公演を観て帰るということが可能な地域である。また、公演が終わった後、少し余暇を楽しむ場所がたくさんあり、そういうことができる唯一の場所としてのポテンシャルは非常に高い。

委員から期待ができる、わくわくする等の言葉が出てきたが、そういうことが期待できる場所だという意見が多かった。一部、敷地の規模としては厳しい点があるため、高さ制限をクリアするか、もしくは地下を考えるかで、コスト増になる可能性があると思われる。高さを積むことはそんなにコスト高にはならないが、日影規制をクリアするという課題が残っている。

スケジュールに関しては、土地所有者との交渉がスムーズにできるのか、我々としては見えなかったもので、保留とさせていただいた。

コストに関しては、前述のとおり、地下化やそれぞれのアクセス路、駅前からのアクセス路や大型車両の進入路を確保する点で、検討が必要だろうと想定している。これらを含めると、費用は他の候補地と比べて少し高くなる。当然、用地費用がその分だけかかるだろうと思われる。

三者三様でそれぞれメリット、デメリットはあったが、デメリットを少なくと考えるよりは、メリットの大きい場所をまず考えるのが筋道ではないかというのが大方の意見であった。

その意味では駅西にかかる期待が大きかったということだ。まずは駅西について検討してほしいという主旨で、終わりにまとめた。そこで、いくつかの不確定要素、特に用地に関する交渉、設計がうまくできるかどうかの検討、これらについて、技術的な検討が必要だと思われる。いろんな支障物件が周りやその場所にもあるため、複数の考え方や代替案についても検討してほしいということ最後にまとめた。

まずは駅西の不確定要素について検討し、なるべく突き詰めた段階で判断してほしい。そして、判断した結果については、数量的なものがどういう形で出てくるかはわからないが、それらを含めて公表して、決定の主旨を説明していただければ良いと思う。

最後に2点加えているが、スケジュールについては、平成35年度の開館を目指して今後きちんとスケジュール化していかないと駄目だと思うので、是非きちんとしていただきたい。また、仮に駅西で用地を取得するとなれば、他の2か所の土地が残るため、そのことを踏まえて、市全体のまちづくりビジョンを早急に検討いただきたい。よろしくをお願いします。

**市長：**

委員の皆様には、ご多忙の中、新ホール建設候補地の選定について、数々の貴重な御意見、御提言をいただいたことに感謝申し上げます。

提出いただいた意見書を踏まえ、新ホールの建設候補地を決定したい。

新ホールについては、多くの市民が早期開館を待ち望んでいることから、今後も丁寧かつスピーディーに整備を推進していく。

**副会長：**

3案それぞれ一長一短あるが、総意としては、これからの交渉次第ではあるが、駅西がホール利用者の利便性から考えて一番良いし、中心市街地活性化という非常に大きな課題の克服という点から見てもメリットがある。

まず関係者との協議を進めてほしいという意見が多かったので、それを反映した内容になっている。

駅西の場合は公演・イベント時の大型車による装置や道具等の搬入や列車の騒音等の懸念があるので、課題克服を是非検討していただきたい。皆が待ちに待った県都のホールとして恥ずかしくない、ふさわしい魅力的なホールを造ってほしい。また、音楽ホール以外についても徳島市の中心市街地活性化は急務な課題であるので、市街地活性化の全体的なビジョンも早めに出してほしい。

**A委員：**

このたびの会議にお招きいただき、文化施設を市民の声を取り入れながら作っていくプロセスを体感でき、徳島市のこれからの考えるチャンスをいただいた。

駅西については、車中心の社会ではなくなるであろう未来のなかで、公共交通機関やタクシー、自転車などを組み合わせながら、ひとつの街の拠点となり、そこからショッピングや飲食へと繋がっていけば、中心部に住む市民としては非常に楽しみである。皆にとって「良かった」と思われるような施設になることを願っている。

**B委員：**

3つともメリットとデメリットがある候補地であり、自身も色々と勉強させてもらった。また、報道もあったため、色々な方から意見をいただいた。個人的な意見も入るが、3点ほど市長に申し上げたい。

1点目は、車中心の徳島をバス、鉄道に変えていかなければならない時代が来ている。以前の会議で示された配置案では、ホールの裏側が駅に向く形になっているため、立体駐車場の買収や賃貸ができるかの課題が出てくるが、できれば駅に正面を向けるように考慮してほしい。

2点目は、今回は3つの候補地でメリットデメリットを比較して議論したが、市長が候補地を決定するときには、新町西再開発のことも念頭に置くことになると思われる。再開発では、段々と買取価格が上がっていったが、その額を上回らないのはもちろん、どの候補地に決まってもできるだけ価格を安く抑えてほしい。

3点目は、ホールだけでなく、鉄道高架や市立体育館、中心市街地を含めて街全体の構想をどうするかが重要で、ホールがその起点になればよいという意見があった。いま、徳島市も色々なビジョンを立てているところだが、徳島市に最大の効果を生むビジョンを再度考えなければならない。委員内でも、ホールだけではなく周辺への波及効果の話が出ていた。これらを十分に検討し、最終的な判断を下してもらいたい。

**C委員：**

そごう、アミコビル、ポッポ街などを含めて徳島駅周辺の活性化をどのように図るかを十分に考えてほしい。また、鉄道高架の進捗状況により、駅北側の整備や開発をどう進めるか。少子化により内町小学校のあり方も変わるかもしれないし、市立体育館も耐震はしているが、いつまでも使えるかはわからないので、利用しながら新しい発想をしないといけない。

また、意見書にも記載しているが、お金もかかるし、市民の関心も高いため、どの候補地に決まったとしても、その決定理由を細かく丁寧に市民へ説明しないとけない。

**D委員：**

自分がこの会議に出席していることを知り、色々な方から提言をもらったが、ほとんどが違う意見である。その分、関心を持ってきているということだ。行政の進める事業では、全員が賛成することはまずないと思われるが、できるだけ多くの方が「ここにこの建物ができて良かった」と思えるものを目指してほしい。そして、人口減少時代を迎えていることを踏まえて、華美ではなく、実のある建物を目指してほしい。また、鉄道高架や敷地の周囲のことを含めて、関係者と協調し、前向きに検討を進めてほしい。

**E委員：**

演奏する立場の人と話をすると、とにかく早くホールが欲しい、目処である平成35年度に間に合うようにしてほしいと言っている。もうひとつは、県都にふさわしいホールを、ここで演奏したい、聴きたいと思えるホールを作してほしい。子どもたちへの指導にあたり、実際に音の響き方を体感させてやりたいと思うが、今はそれができる場所がない。

また、個人的な話であるが、徳島中央公園が憩いの場になってほしいと思っている。他県の城内ではもっと人が集まっているが、徳島は桜の季節ぐらいしか集まらない。街の再開発も重要だが、隣接する徳島中央公園ももう少し活性化できないかと思うので、その点も考えてほしい。

平成35年度の開館は是非ともお願いしたい。

**会長：**

皆さんと同感で、自分もとにかく良いホールを造りたいと思い10年以上関わってきた。もともとは交通問題などから関わっており、候補地が動物園跡地から始まり、新町西再開発を経て駅西になったが、どんどん中心部に近づいてきている。

これまでは、車で行き、公演を見たらすぐに帰れるのが便利な場所、という考えだった。動物園跡地を検討していたときも、600台や800台の駐車場が併設できないかという議論をしていたのを覚えている。しかし、駅のそばにホールを造ることで、その考え方を改める意見が今回引き出せた。例えば、将来自動運転が完成すれば、車を駐車しなくてもよいので、駐車場も要らなくなるかもしれない。30年前に携帯電話が無かったように、30年後はどうなるかわからない。

中心を失った街は最も魅力がないので、ぜひ街の中心を魅力ある空間にしてほしい。ホールはその第一弾として、他の要素も考えながら進めてほしい。

(2) その他  
(なし)

事務局：

第5回徳島市新ホール建設候補地検討会議を終了する。